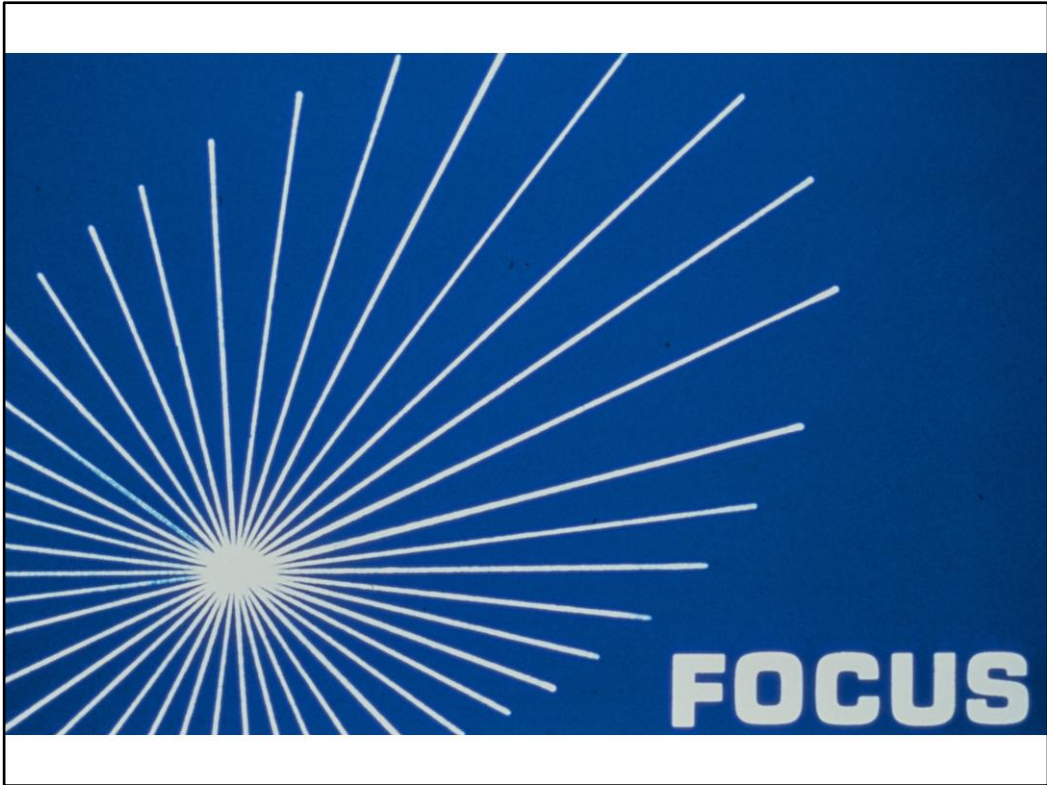




**このスライドは、モーターボート競走公益資金による
(財)日本船舶振興会(笹川良一会長)の補助金を
受けて制作したものです。**

企画 (財)アジア人口・開発協会(APDA)

『タイトル(企画・協賛)』

このスライドは、モーターボート競争公益資金による

(財)日本船舶振興会(笹川良一会長)の補助金を受けて制作したものです。

企画(財)アジア人口・開発協会(APDA)

APDA 人口と開発シリーズ No.3

日本の産業発展と人口

—その原動力・電気—

『タイトル(題名)』

APDA 人口と開発シリーズNo.3

日本の産業発展と人口

-その原動力・電気-



『国際会議風景(字幕)』

1984年8月16日。

メキシコ市で世界の60ヶ国が参加、

「人口と開発に関する国際議員会議」が開かれ、

行動計画を採択した。

その中で、人口と開発政策に対する理念が明確に打ち出された。

人口と開発政策の最終目的は、
生活水準と、個人、家族の福祉を
向上させることである。

「人口と開発に関する国際議員会議」行動計画より

『行動計画より(字幕)』

人口と開発政策の最終目的は、
生活水準と、個人、家族の福祉を向上させることである。

「人口と開発に関する国会議員会議」行動計画より



『東京・新都心(夜景)』

日本の首都、東京。その新都心新宿。

電気は、産業発展と人的能力開発の原動力となった。



『家族の団らん風景』

又、電気は豊かな家庭生活を実現、
出生率の低下にもつながった。



『いろりのある農家(白黒写真)』

これは、今から40年前の日本の農村の家族写真である。

まだランプ生活であった。

農業もまだ近代化されておらず、たくさんの人手を必要としていた。



『電気が来る山あいの村(二面合成・白黒写真)』

山あいの村にも電気がとおる日が来た。

車も通れぬ急坂道をリヤカーに積んで押し上げる。

電柱がたつと電線が谷をわたってはられ、

引込線がひかれ、メーターがとりつけられる。

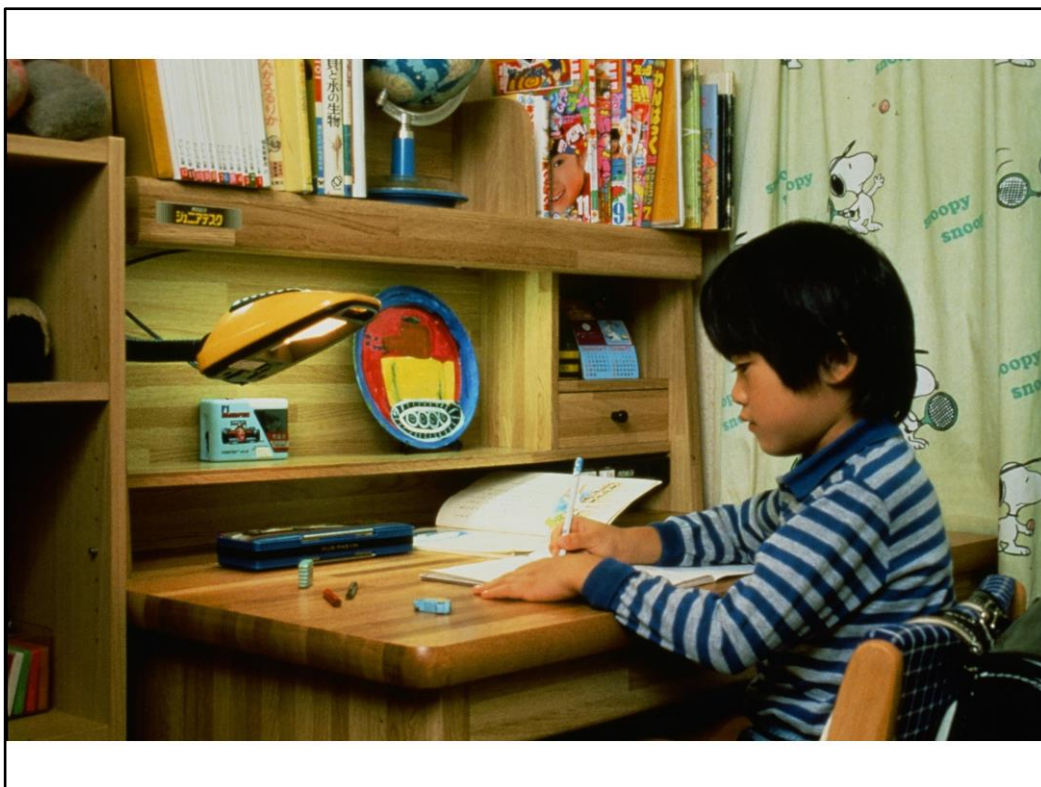


『ランプをみがく子供と電灯をみつめる子供達(二面合成・白黒写真)』

ランプそうじは子供たちの日課であったが、

家々にあかりがつけられた時、子供たちは、

はじめてまのあたりにする電気のあかりに歓声をあげた。



『勉強部屋』

これは、いまの子供たちの勉強部屋の風景である。



『小学校の授業風景』

日本の産業発展を考える時、
教育が果たした役割は、きわめて大きい。

日本の教育制度は、小学校6年、
中学校3年の9年間の義務教育制度があり、
その上に3年あるいは4年間の高等学校があり、
ほとんどの生徒が進学する。



『夜間学校の授業風景』

これは、昼間働きながら勉強する

夜間高校生たちの体育の授業風景である。

日本の場合、高等学校は普通科、

夜間の他に職業教育として商業、工業、農業、水産、工芸などがある。



『コンピューター専門学校の授業風景』

高等学校の過程をおえると

この写真のコンピューターの専門学校のような各種職業人を養成する

専門学校や、短大、4年制、6年制の大学がもうけられている。

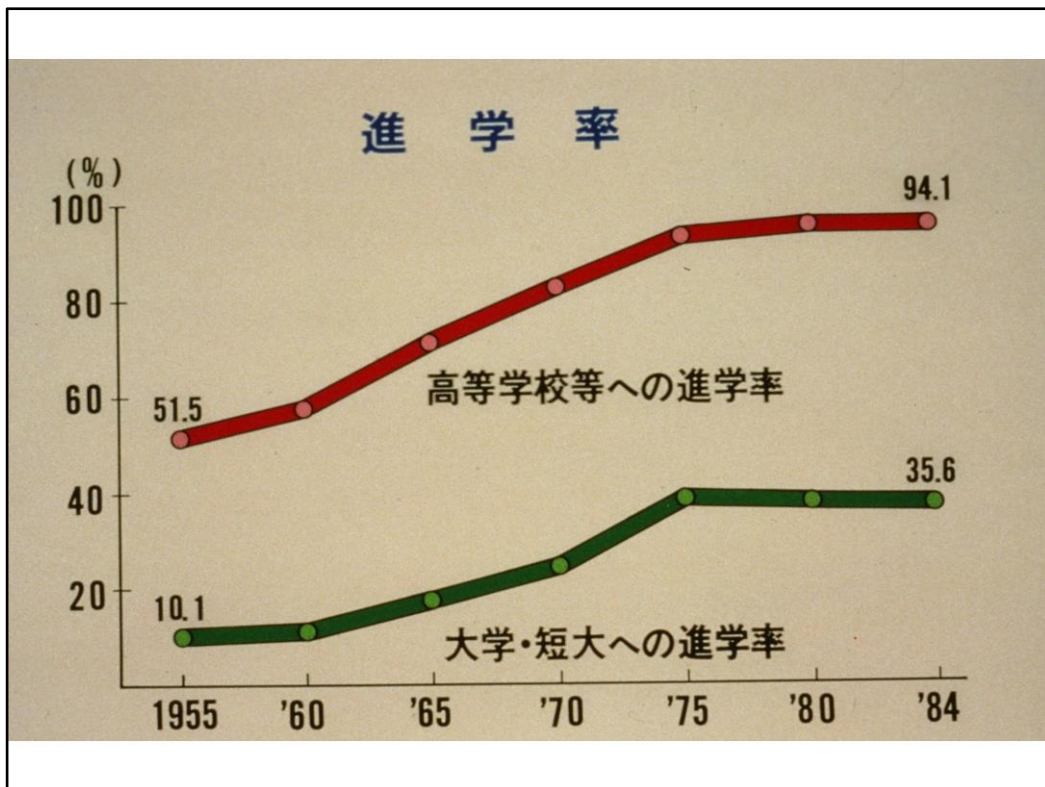


『女子大キャンパス風景』

これは、大学のキャンパス風景である。

女性の高学歴化は知識集約型産業への職場進出を促し、

同時に結婚年齢の引き上げにもつながった。



『進学率(グラフ)』

この表は、戦後の進学率をみたものだが、

1948年現在で、高等学校への進学率は、94. 1%、

大学、短期大学へは、35. 6%を占めている。

こうした日本の教育制度は、

質の高い労働力をたえず社会に送りこんでいった。



『廃墟(白黒写真)』

1945年、日本は混乱と廃墟の中で敗戦を迎えた。

戦災で国富と生産設備の大半が破壊された。



『ヤミ市(白黒写真)』

敗戦後の日本は、深刻なエネルギー不足と食糧難にみまわれ、
さらに外地からの復員や引き揚げで人口が急増し、
失業者が街にあふれた。



『ダム建設風景(白黒写真)』

産業復興するため、自然の水源に恵まれていたわが国では、
まず水力を利用した電源開発を国策として、
官民一体となって急ピッチですすめた。



『水力発電用ダム』

これは、完成されたダムである。



『火力発電所』

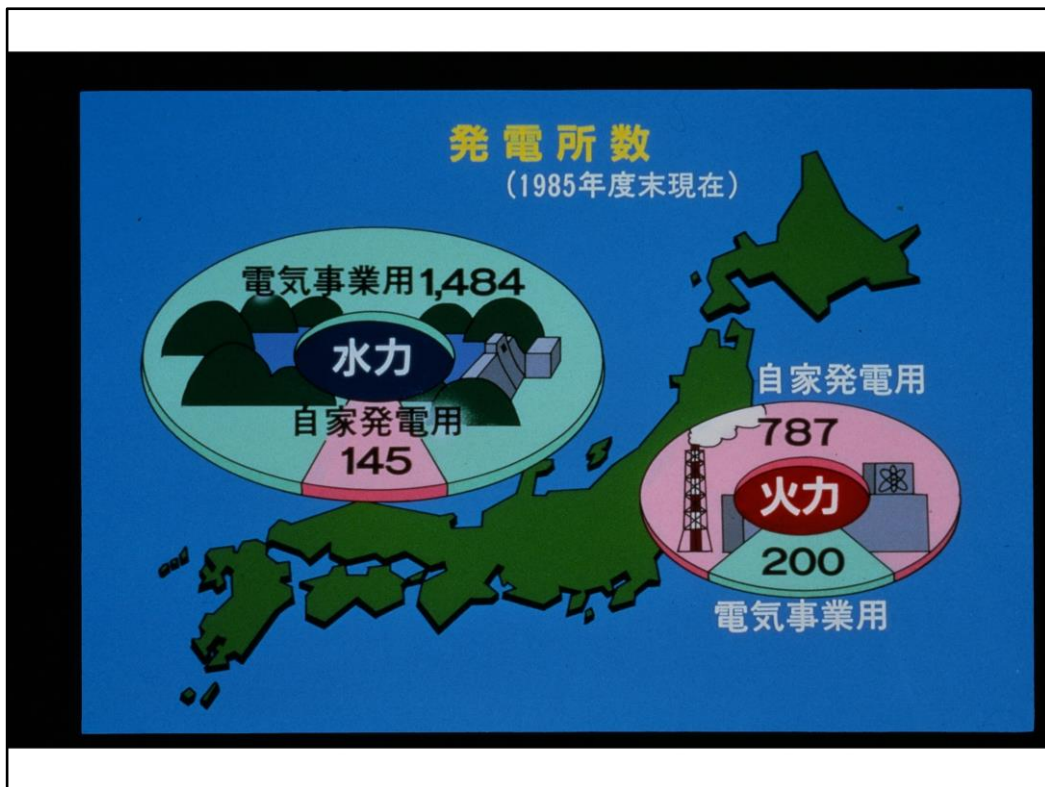
しかし、まだ電力は不足したため

火力発電所の建設もすすめられた。



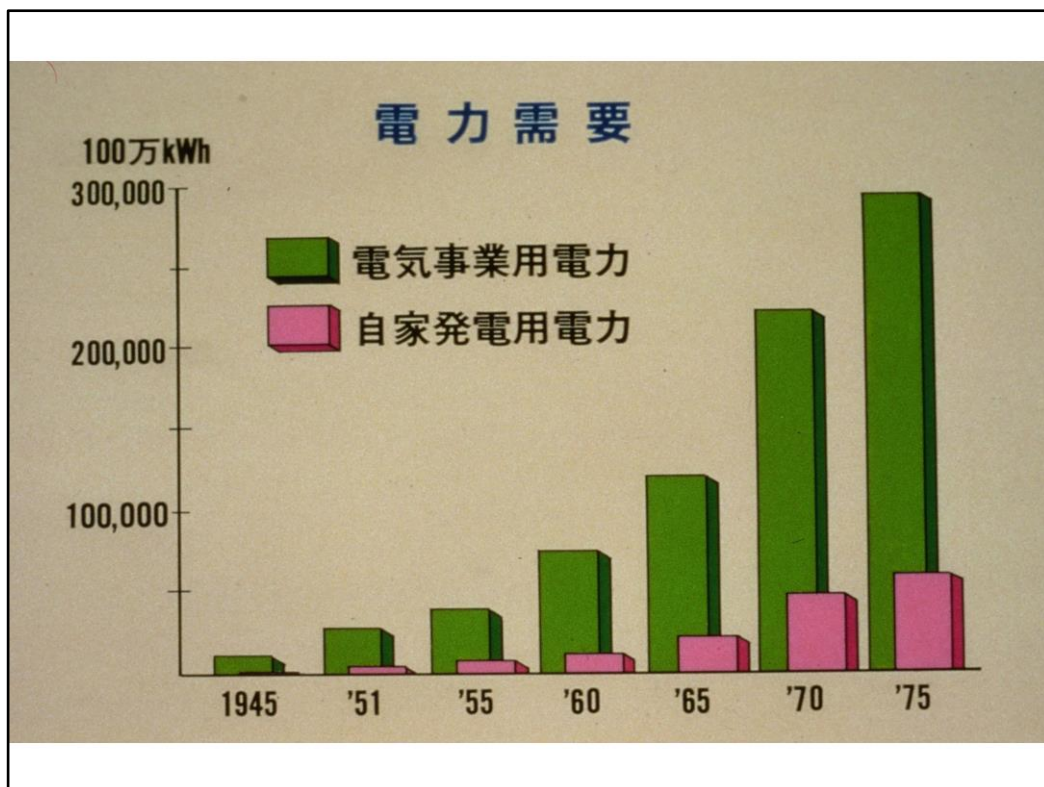
『送電線』

これは、全国通津浦々にはりめぐらされた送電線である。



『発電所数(図表)』

この図は1985年までに建設された水力及び火力の発電所の数を示したものである。



『電力需要(グラフ)』

電力需要も産業などに使用される電気事業用だけで

1951年の245億8400kWhから

1960年743億6700kWhと約3倍の増加を示した。

電気は、まさに各種産業創出の源となった。



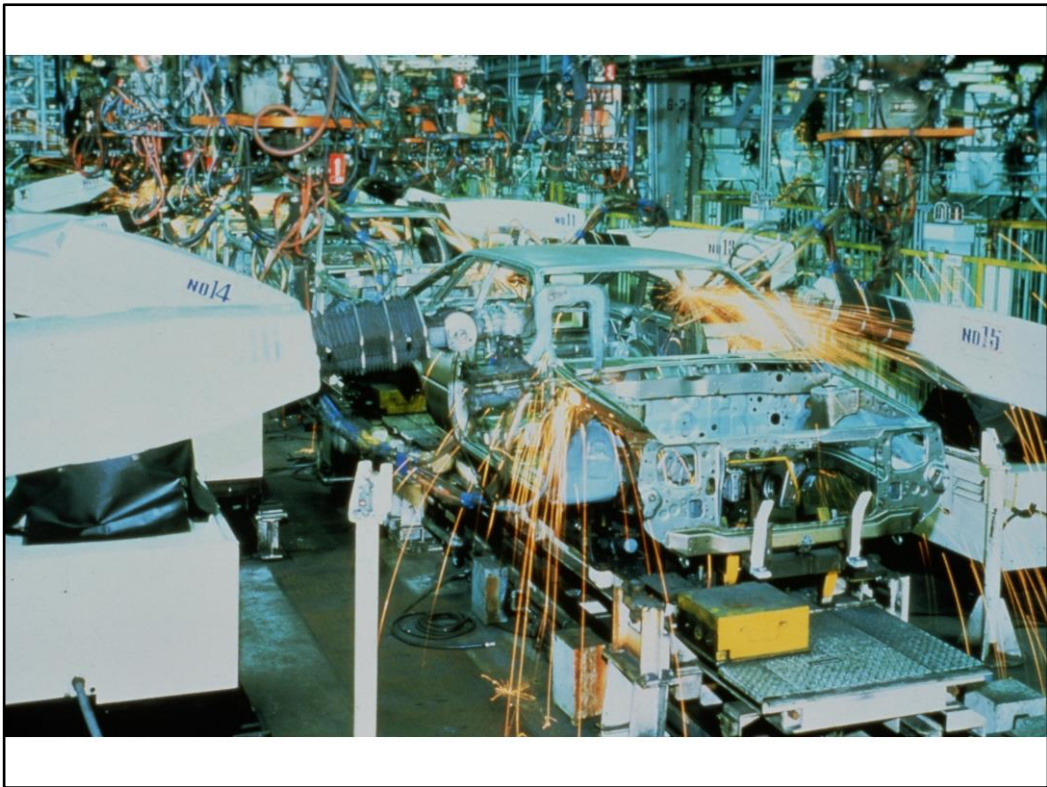
『製鉄所・電気炉』

これは、産業の基本になった製鉄所の電気炉。



『自動車工場(組み立てライン)』

わが国高度成長産業のひとつ、自動車産業。



『自動車工場(ロボット化されたライン)』

技術はすすみ、ロボット化された向上。



『農業電化(四枚合成・白黒写真)』

電気は又、農村の近代化を促した。

1950年代後半になると、かんがい、脱穀、温床養鶏、

電照栽培など、農村の電化は農作業の効率化や

新たな栽培方法をみだし、生産力を向上させた。



『コンバインによる農作業』

農業近代化の花形、コンバインによる農作業、
少ない労働力でも十分にこなせるようになった。



『都会で働く若年労働者』

農村から都市化に流入した若い労働力は、

毎年50万から60万人にも及び、

特に1955年から、70年末までに年々10万人の人口を

臨海工業地帯のある三大都市圏で受け入れている。



『集団就職』

これは高校卒業者の集団就職の風景である。

農村から都市への労働力の供給が

日本の高度経済成長を支える原動力のひとつになったのである。



『新幹線』



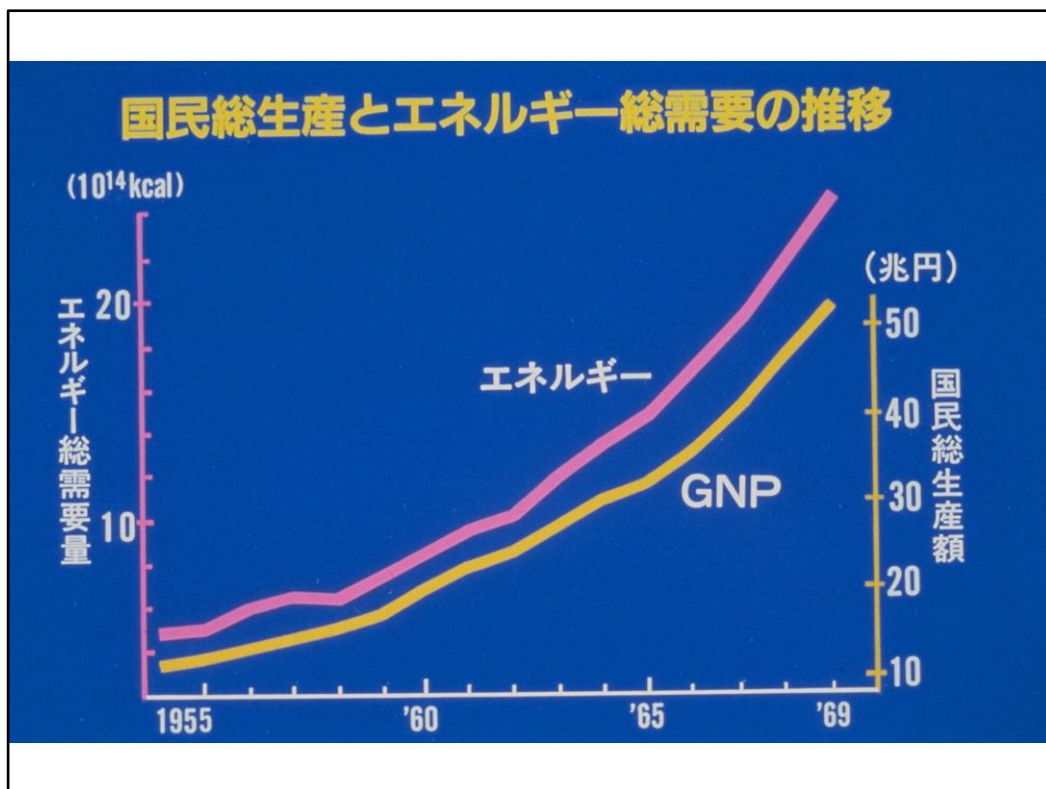
『新幹線と富士山』

時速220kmで走る新幹線。

この新幹線に象徴されるように

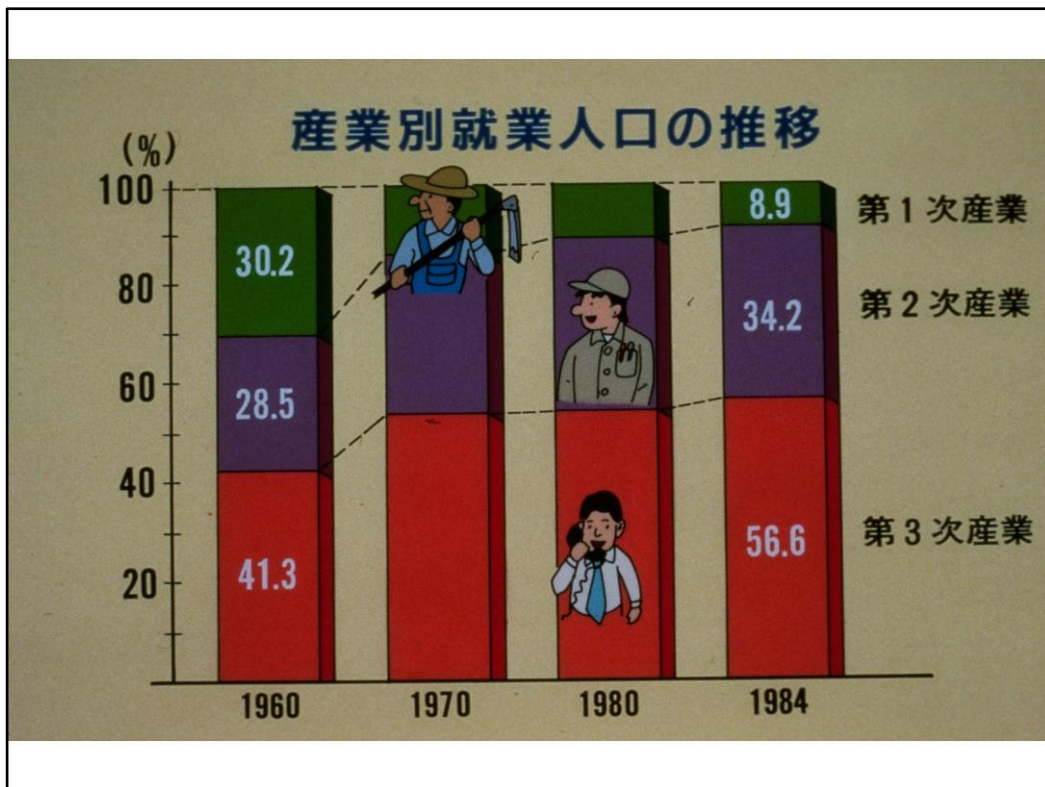
1960年代ころから産業活動も活発化し、

スピード化した。



『国民総生産とエネルギー総需要の推移(グラフ)』

このグラフは、日本の国民総生産とエネルギー総需要の推移をみたものである。



『産業別就業人口の推移(図表)』

こうした高度経済成長の中で、日本の産業構造も大きく変化した。

産業別就業人口は、第一次産業が低下して、第二次産業が増加、

工業国へと急ピッチで移行した。



『工場外景』

日本の産業発展を促した活力は、
近代的な職業の中からもうみだされた。

そのひとつは、1950年代半ばから
日本の多くの企業が職場単位でとりいれた
「新生活運動」である。

新生活運動実施項目

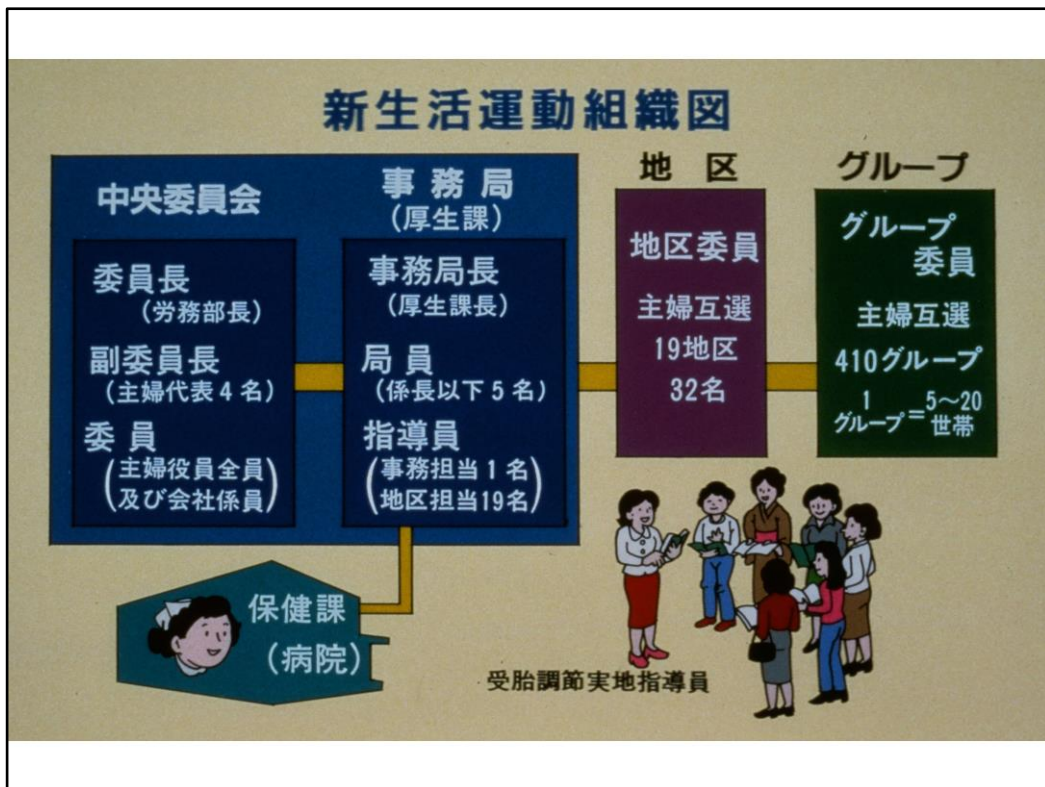
1. 教 養
2. 保健衛生
3. 生活の合理化
4. 家族計画の普及
5. 育児と子供の教育
6. 社会道德
7. 家族の慰安



『「新生活運動」実施項目』

この運動は企業と家族が一体となって
健康管理を中心にすすめたものである。

これは、その実施項目である。



『「新生活運動」組織図』

これは、この運動の先べんをつけたある鉄鋼会社の組織図である。

特に指導員と家庭婦人が中心となってこの運動にとりくんだ。



『ある企業体のチラシ(A)』

これは、当時、従業員の家族に配られたチラシである。

このチラシのように従業員とその家族の健康と生活のために

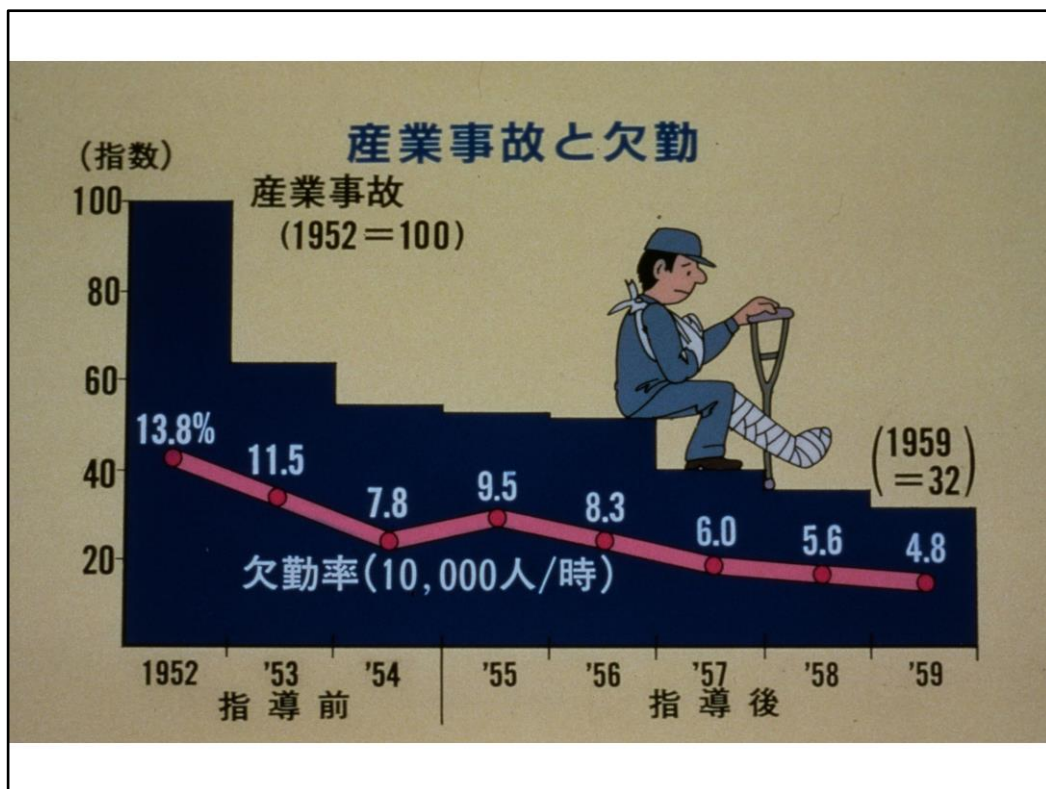
家族計画の指導もおこなった。



『同・チラシ(B)』

又、生活時間のアドバイスをおこなうなど、

この運動は、いくつかの面で大きな成果をあげた。



『産業事故と欠勤率(グラフ)』

新生活運動を実行したこの企業では、

従業員の産業事故が、1952年から55年の3年間で半分にへり、

さらに7年後には三分の一にへっている。

又、欠勤率もへった。

家族計画指導前後の出生 及び人工妊娠中絶の変遷

	夫 婦 総世帯数	受胎調節 実 行 率	出 生 率 (100世帯当り)	中 絶 率 (100世帯当り)
1952 (指導 1 年前)	8,222	40.7%	17.9%	11.6%
1953 (指導 開始)	8,530	56.0	15.3	10.2
1954	9,415	70.5	13.6	7.4
1955	9,800	68.1	12.7	4.5
1956	10,800	65.0	11.9	4.2
1959	13,702	71.2	8.9	2.1

『家族計画指導前後の出生及び人工妊娠中絶の変遷(図表)』

又、この表は、出生及び人工妊娠中絶の変遷をみたものだが、
指導前後で明らかに変化がでている。



『「よい品よい考え」工場内』

又、日本の企業では、

従業員の能力開発と企業活動への積極的な参加がある。

この写真は、全従業員からアイデア募集の呼びかけである。



『QCサークル討論風景』

サークルでの討論。

高品質で低価格な製品を作る為、

品質管理サークルなどのグループ活動を通じて討議を活発に展開している。



『話し合いをする従業員たち』

グループ内では、上下のへだてなく、

自由にそして平等に発言するチャンスがあり、

社員間の協力と職場の連帯感の強化にも役立っている。



『社内での研修風景』

社内での研修制度。

例えば、ここでは、新入社員研修、グループ別、

個別教育そして45歳以上の中堅社員には、

経営や管理能力を育成するためのカリキュラム等、

多様な社員教育の為の研修制度がある。



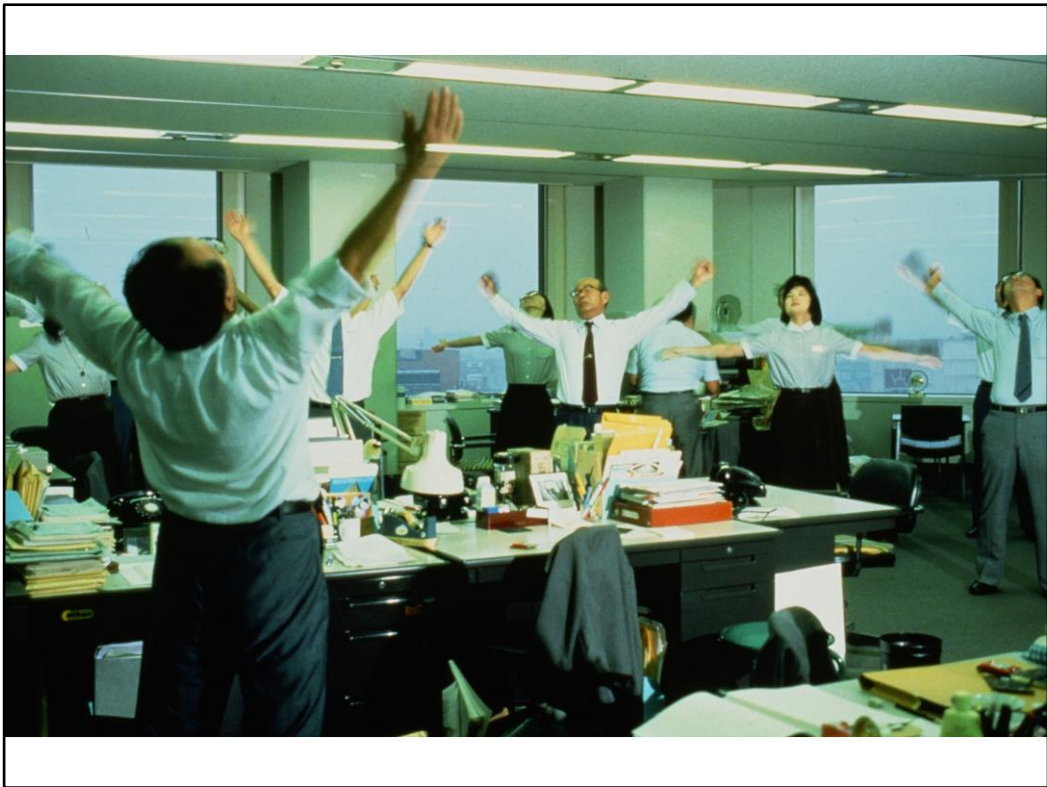
『新宿・新都心構造ビル群』

日本の企業が集中している新都心。



『通勤風景』

職場に向かうサラリーマン。



『職場体験』

日本の職場では、健康管理をはじめとした

福利厚生対策もおこなわれている。

朝や午後に行われている職場体操。



『社員食堂』

昼の社員食堂。

食費の一部を会社が負担し、

安い昼食をとることができる。



『購買部』

購買部では、生活用品も購入できる。



『運動会(つなひき)』

これは、企業の運動会。

企業と家族を人間的にむすびつける大きな役割を果たしている。



『運動会(玉入れ)』



『団地風景』

これは、福利厚生の一環としてつくられたある大手企業の社宅だが、
今日、日本の社会の中で多くを占める小家族の代表的住い、団地である。
そこでの生活をのぞいてみると、文字通り、
電気社会の生活様式となっている。



『アイロンをかける主婦』

家事の電化は、家庭の主婦にとって余暇をうみだし、
地域活動や文化活動に参加するなど、
自分の時間をいかせる余裕も生み出している。

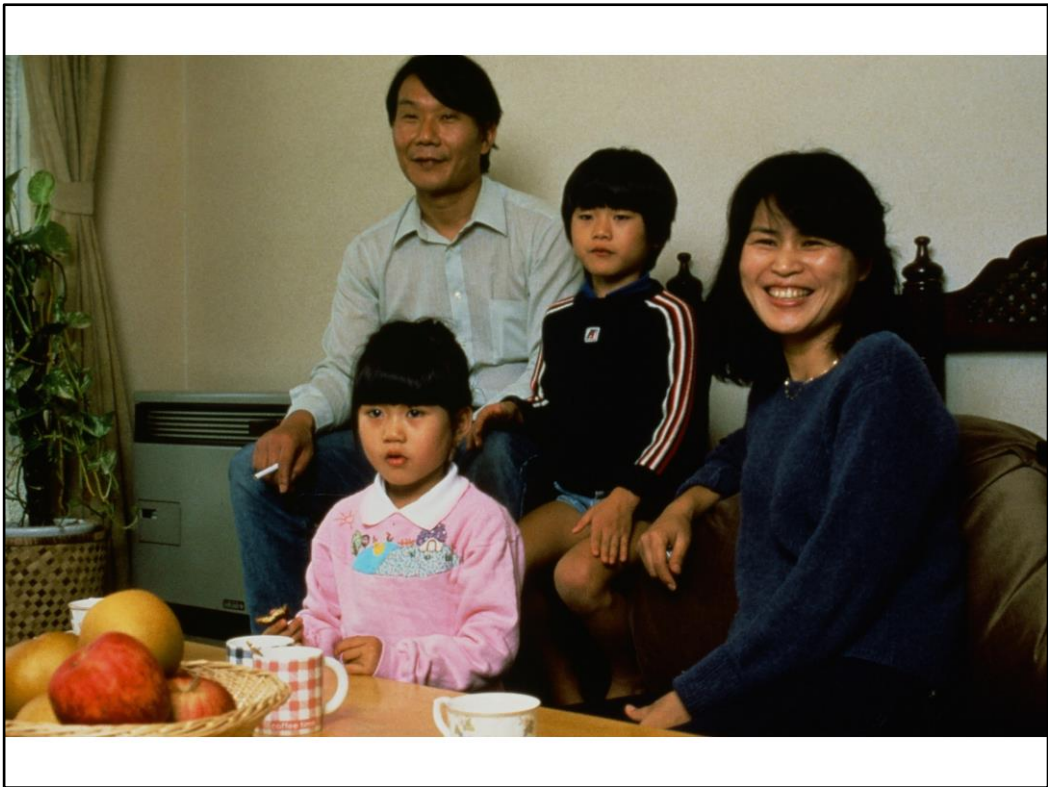


『そうじ機をかける主婦』



『テレビゲームで遊ぶ子供』

子供たちに人気のあるテレビゲーム。



『家族写真』

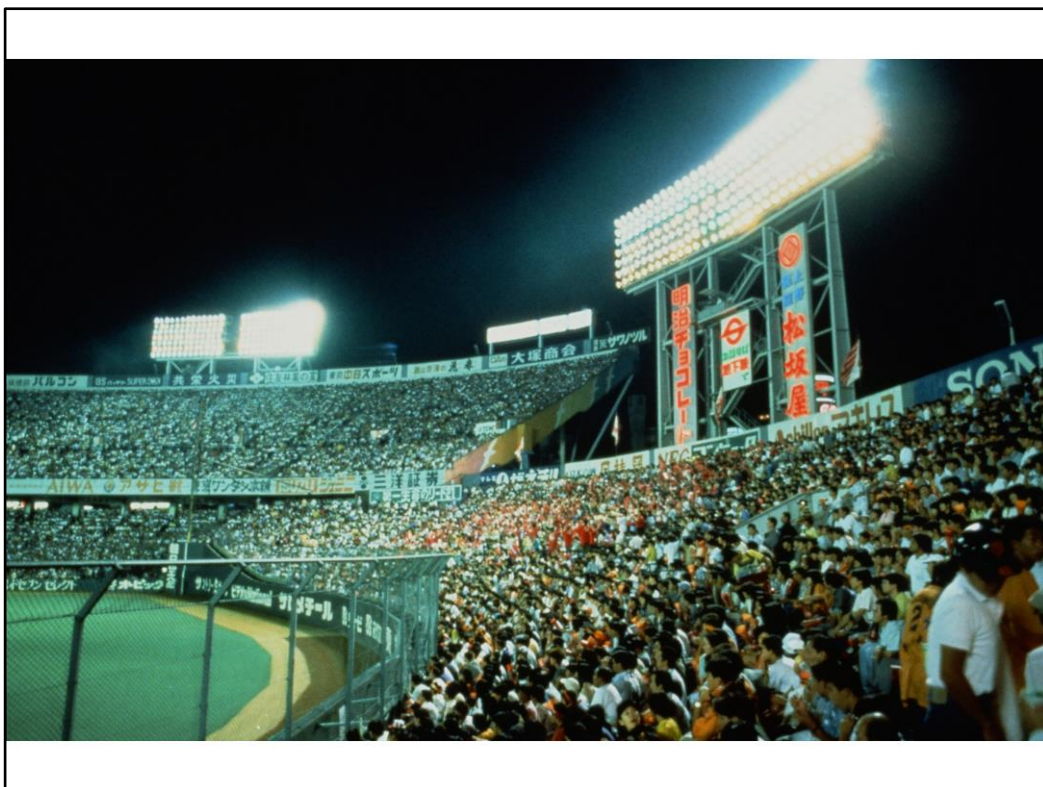
まさに現代日本は、電気の時代といえるだろう。

電気は、これからも産業と人材の開発、

そして生活の質の向上にますます貢献することになるだろう。



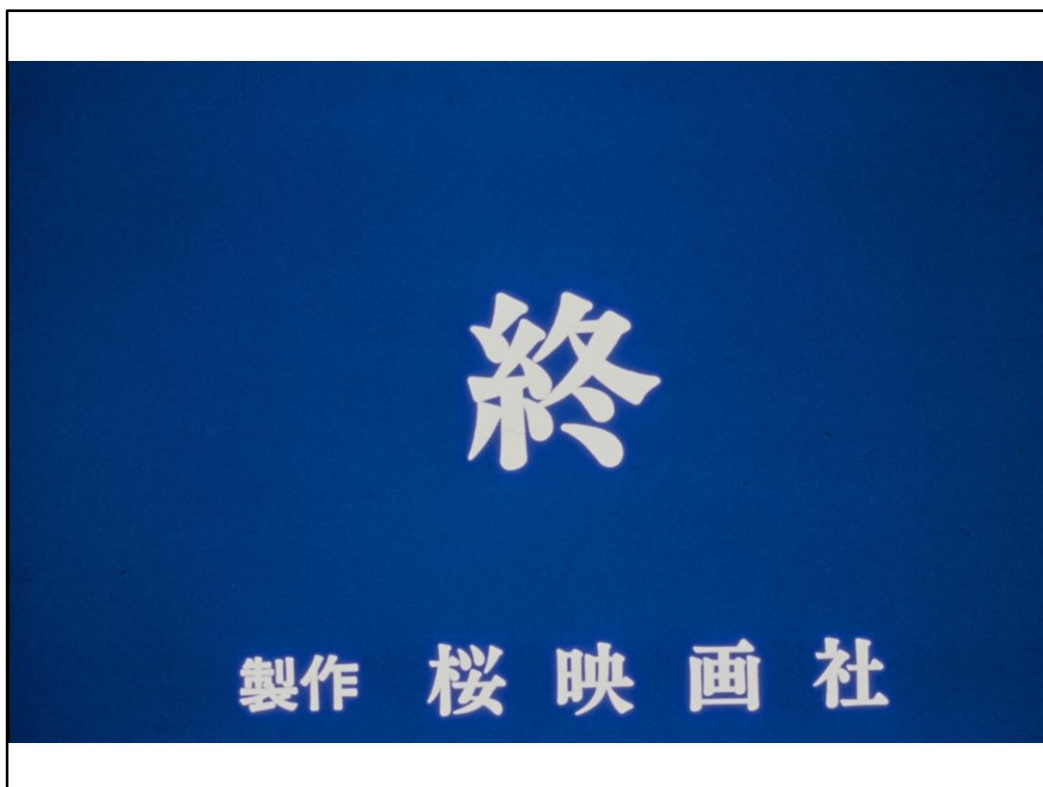
『ナイター(A)』



『ナイター(B)』



『遊園地(夜景)』



『タイトル(終・製作)』

製作 桜映画社

協力（イロハ順）
日産自動車株式会社
東京電力株式会社
東京読売巨人軍
トヨタ自動車株式会社
千代田工科芸術専門学校
株式会社 オリエンタルランド
大成建設株式会社
新日本製鐵株式会社
住宅・都市整備公団
熊谷 元一

『タイトル（協力）』

日産自動車株式会社
東京電力株式会社
東京読売巨人軍
トヨタ自動車株式会社
千代田工科芸術専門学校
株式会社オリエンタルランド
大成建設株式会社
新日本製鐵株式会社
住宅・都市整備公団

熊谷 元一